







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning across the gutter of the open book. The text is densely packed and covers most of the page area.

Handwritten text at the top left of the page, possibly a page number or header.

Handwritten text at the bottom left of the page, possibly a page number or footer.

Handwritten text at the top right of the page, possibly a page number or header.

Handwritten text at the bottom right of the page, possibly a page number or footer.

古今和歌集卷第一
春哥上

あつとけいさくらひのひめ

たふえり

年の内ふまはなかりしとせよとてふらふらん

紀書之

ゆらゆらとけいさくらひのひめ

ふらふらとけいさくらひのひめ

あつとけいさくらひのひめ

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり
梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり
梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり
その香気は芳しきものなり

梅の香気は芳しきものなり

天竺の蓮花の葉を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

梅花の葉を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

月夜に梅の花を採りて水に漬けて置くと花の葉は白く
なるべし

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

見たり
見たり
見たり

ありて人懐けりて人の懐きしむるなりて
橋のよきとくはしむる人の懐きしむるなり
人のよきとくはしむる人の懐きしむるなり

おのれはとくはしむる人の懐きしむるなり
身をたはしむる人の懐きしむるなり

おのれはとくはしむる人の懐きしむるなり
身をたはしむる人の懐きしむるなり

古今和歌集巻第三
去声下

おのれはとくはしむる人の懐きしむるなり
身をたはしむる人の懐きしむるなり
おのれはとくはしむる人の懐きしむるなり
身をたはしむる人の懐きしむるなり

おのれはとくはしむる人の懐きしむるなり
身をたはしむる人の懐きしむるなり

そうくは御 西地

梅ら花のいよふつとを海つゝさそふゆ
梅のむのらりゆけりといふはなげり

うせいの師

花らとさほのやうに流るるをわづらひ
うらふはなと梅のふかきとあり

梅のよふとあつたをわづらひ
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

あつたはなと梅のふかきとあり
あつたはなと梅のふかきとあり

花の女さくらさくらもまた花よもくさるる

春の女さくらさくらもまた花よもくさるる

三好の女さくらさくらもまた花よもくさるる

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

花をわらわくを好む人多しと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

其の好むに似たりと云ふ人々は

花

好

む

に

似

た

り

と

云

ふ

人

々

は

花

を

わ

あつたにいふやのゆたぐあつたにいふよ

侍らぬのいふにいふにいふにいふにいふに

よのゆたぐあつたにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

あつたにいふに

あつたにいふに

あつたにいふにいふにいふにいふにいふに

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.

何事もなほまじに卯の家のくはせ申すはつらさるん
道の家とていへりあり 傍に色紙
とらふふらうはまぬをりてけらるゑをまじけ
りの面わらういけり 杖杖がこいあり

友のたまひ青さうのめんとをせらるるにりや
隣にトキや友のせとらういとせとせとせと
ハ情をいさうとせとせとせとせとせと

らうとせとせとせとせとせとせとせとせと
こいりのつらりのりあり
をせとせとせとせとせとせとせとせと

古今和歌集卷中四
林平上

林平上 後京極の御下

秋をあらわすもあはれはなほしのこふつら
秋をあらわすもあはれはなほしのこふつら
あはれはなほしのこふつら

何の海くもあはれはなほしのこふつら
あはれはなほしのこふつら

つらさるる夜のよそとあはれはなほしのこふつら
つらさるる夜のよそとあはれはなほしのこふつら
つらさるる夜のよそとあはれはなほしのこふつら
つらさるる夜のよそとあはれはなほしのこふつら

秋の夜は静かにおきおぬるよとゆふのこゝろ
そらのみこのかしのうけをたふすあり

秋のよむはゆかへむすむしつゝぬらうらうらぬる
あつらうらう

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

あつらうらうとせむむ、ぬらうらうらぬる
ゆふのこゝろ

女を不潔とせしむれば其の恥は人知れぬと云ふは

人の心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

世の人心はかくも地獄に似たりと云ふは

素直に申

私の心をなやまして人々を驚かすは
まの心をなやまして人々を驚かすは

福をうけたいは福をうけたいは
福をうけたいは福をうけたいは

月もたぬをいふは月もたぬをいふは
月もたぬをいふは月もたぬをいふは

仁徳のみうけたいは仁徳のみうけたいは
仁徳のみうけたいは仁徳のみうけたいは

てなやまして人々を驚かすは
てなやまして人々を驚かすは

古今和歌集巻中五
秋下下

こはるはるこの心をなやまして
こはるはるこの心をなやまして

吹くは秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は
吹くは秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は

秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は
秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は

紀よりゆら
紀よりゆら

秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は
秋のそよ風は吹くは秋のそよ風は

中へりて神のいさむるをばあはれりうらな
そまのふくのふのふくしんをばあ

あやふくまをばあふくしんをばあ
あまふくまをばあふくしんをばあ

らねしとあんと惜しむるふくしんをばあ
大かのかいふくしんをばあふくしんをばあ
乃まふくしんをばあふくしんをばあ

そまのふくまをばあふくしんをばあ
あまのふくまをばあふくしんをばあ

秋身へけりてあはれりうらな
秋の身へけりてあはれりうらな

まの秋のあはれりうらな
まの秋のあはれりうらな

あまの秋のあはれりうらな
あまの秋のあはれりうらな

あまの秋のあはれりうらな
あまの秋のあはれりうらな

あまの秋のあはれりうらな
あまの秋のあはれりうらな

その人の心の奥に秘蔵されたもの

文ある社の筆跡は、
仁徳ある人の心から
流れるもの

世に於ては、
人の心は、
神の御心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

神の御心は、
人の心と
通ずるもの

秋の月がさかすか
雲の影をうかす
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の
静かなる夜の

Handwritten text in a cursive script, likely a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a date or location.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, possibly a name or title.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Small handwritten note or signature.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry. The text is written vertically on the right page of the open book. It begins with a large character that looks like 'の' followed by several lines of dense writing. There are some larger characters interspersed, possibly indicating dates or specific events. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written vertically on the left page. It starts with a large character that looks like 'の' and continues with several lines of dense writing. The script is consistent with the one on the right page. There are some larger characters interspersed, possibly indicating dates or specific events. The ink is dark and the paper shows signs of age.

そののこまよゝあり ちかふえり
おまののけよあふまにききわつと海つり
やんち御はまののまのまのまのま

おれをまてし ちかふえり
そののまよゝあり ちかふえり
おまののけよあふまにききわつと海つり
やんち御はまののまのまのまのま

たにちかふえり ちかふえり
からり

おまののけよあふまにききわつと海つり
やんち御はまののまのまのまのま

おまののけよあふまにききわつと海つり
やんち御はまののまのまのまのま

つる巻をりしをばねはきくさむらひのあつらひの巻をり
けしきあひ人まゐのきねくさむらひのあつらひ
ふしむねのらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひ

うらむらひ

夏とよむをりしをばねはきくさむらひのあつらひ
目物のこしむらひのあつらひのあつらひのあつらひ
しむらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ

林

後のえん松を林月吹うに急打りうがむらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ
あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ

あつらひのあつらひのあつらひのあつらひのあつらひ

Handwritten text at the top of the right page.

Handwritten text below the top line on the right page.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines.

Second main body of handwritten text on the right page.

Third main body of handwritten text on the right page.

Fourth main body of handwritten text on the right page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of several lines.

かんがのうかよやうらけのゆかうたか
くまうてぬのいづ海をたぐさうりまのゆ
てすうらちゆけりやうまうりてうりて

あま

ねまのいとおぬか入るまうてうたは
とあうりやうり

あま

ほひんあまあふたのうまうたは
あまのうらまうまあまうりてあ
けうらうりて

あま

あまのうらまうまあまうりてあ

あま

あま

あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ

あま

あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ
あまのうらまうまあまうりてあ

あま

古今和名集卷之十
物名

くらしす

後京敏り部

くらしすの系にやうくくらしすといふもの

くらしす

ちかきけらり

作のうらむをいふをいふけらりけらりけらり

くらしす

いん

わさあふ者あふくくらしすといふもの

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page area, with some lines starting with capital letters or specific symbols. The right page contains several lines of text, including what appears to be a date or reference: "1771". The left page continues the text, with some lines starting with "1771" as well. The overall appearance is that of a well-used, historical record book or journal.

うらやま

たむしのきり

花の色に似たりとて花のよきとてとてあつちり

ふらふら

あきら

命をたぐはぬとてあつちりあつちりあつちり

かたけ

あつちりのあつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

あつちりあつちりあつちりあつちりあつちり

あつちり

あつちり

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

Handwritten word or phrase, possibly a name or title.

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account.

古今和歌集卷第十一
鳥打

鳥打

鳥打

可き鳥打の口におもひあはれあはれぬ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

まのこゝろのこゝろにまのこゝろにまのこゝろ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is densely packed and written in a dark ink on aged, yellowed paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used. The text appears to be organized into several lines or paragraphs, with some lines starting with larger, possibly initial letters. The overall appearance is that of a well-used, historical record or account.

古今和歌集巻之十二

恋三十一

恋三十一

小井小所

あつねをいふ人のまへにんをなとさうせむらふ
うらむらふあつねのまへにんをなとさうせむらふ
うらむらふあつねのまへにんをなとさうせむらふ

未收

秋のふゆをいふ人のまへにんをなとさうせむらふ
あつねをいふ人のまへにんをなとさうせむらふ
うらむらふあつねのまへにんをなとさうせむらふ
うらむらふあつねのまへにんをなとさうせむらふ

あつねのまへにんをなとさうせむらふ

ついでに神よたまめりおまへにあらまの後のこと

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
安んずる神を祀らむとす 神を祀らむとす

志はておめりおまへにあらまの御魂を祀らむとす
後のまめりおまへにあらまの御魂を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす
あまの御魂を祀らむとす 神を祀らむとす

兒書之

天の海をわたる長い舟のついでに
舟にのりて

よきよきあはれそい浪のたてこたぬあはれ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

舟のついでにわたる長い舟のついでに
舟にのりて

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ
あはれあはれとてん抗あはれん神あはれとるあ

独りておぼしむに杖の影はくちをこぼしてはるかにのぼる

あつたぬ

くちをこぼらうらふはねはにわらわらふはなはは

なまのうら

杖の影はくちをこぼしてはるかにのぼる

なまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

あつたぬはのぼるはなははなまのうら

第 一 卷

第 一 卷

此の巻は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

第 一 卷

第 一 卷

第 一 卷

此の巻は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

第 一 卷

第 一 卷

第 一 卷

此の巻は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

第 一 卷

此の巻は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

第 一 卷

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or message from the previous page.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a separate line or section.

Handwritten text in a cursive script, continuing the flow of the document.

Handwritten text in a cursive script, showing a continuation of the text.

Handwritten text in a cursive script, with some characters appearing to be larger or more prominent.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a distinct line.

Handwritten text in a cursive script, concluding the page.

第 一 卷

第 一 卷

東の朝と夜に花をくさす

一 卷

花をくさす

花をくさす

一 卷

花をくさす

花をくさす

一 卷

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

花をくさす

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different language or dialect than the surrounding text. The script is fluid and somewhat slanted.

Small handwritten text or a signature located below the main block of text on the right page.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It appears to be a continuation of the text or a separate entry. The script is consistent with the one on the right page, showing a high degree of fluidity and slant.

Small handwritten text or a signature located below the main block of text on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dense, flowing style across several lines.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference, located in the middle of the page.

Handwritten text, continuing the narrative or record from the previous lines.

Handwritten characters, possibly a name or a specific term, written in a smaller hand.

Handwritten text, continuing the narrative or record.

Handwritten text, concluding the entry or section on this page.

Handwritten characters, possibly a page number or a section marker.

Handwritten characters, possibly a page number or a section marker.

Handwritten text in cursive script, top line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, twelfth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, top line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eighth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, ninth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, tenth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, eleventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, twelfth line of the left page.

この井の邊に於てあるは、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、

此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、

此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、

此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、

此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、
此の地は、此の地は、此の地は、

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written on two pages of aged paper. The script is dense and fills most of the page area. There are some faint markings and possibly small annotations or corrections interspersed within the main lines of text. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten characters or symbols, possibly a page number or a specific marker, located on the left margin of the left page.

Handwritten characters or symbols, possibly a page number or a specific marker, located on the left margin of the left page.

Handwritten text in a cursive style, possibly a list or account. The text is written vertically and includes some characters that appear to be numbers or specific terms. The right page is mostly blank.

古七和の... 和を...
と教傷...

い... の... の...

... の... の...
... の... の...
... の... の...

... の... の...
... の... の...
... の... の...
... の... の...

夜長しういふ地への旅のまじふあめりけ
あしよゆらにのちの夜はくまへりけ
しよしよ

切あめりけのふたつあめりけのふたつ
あしよゆらにのちの夜はくまへりけ

いぢり

いぢり

あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ

いぢり

あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ

いぢり

あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ

いぢり

あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ

いぢり

あめりけのふたつあめりけのふたつ
あめりけのふたつあめりけのふたつ

いぢり

天川をながるる水は清く流るる月を照らす
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
けいこくをこころにこころにこころにこころ
かろくをこころにこころにこころにこころ
せいせいをこころにこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ

あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ

あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ
あはれに思ふに春の風はあはれに吹く
こころのこころをこころにこころにこころ
こころにこころをこころにこころにこころ

もあつておつちうらむせらむけんがほりよふちうらむ

ちうらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

せらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむせらむ

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

Handwritten text in a cursive script, likely a religious or philosophical passage.

今更に此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

平一

此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

平一

此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

平一

此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

平一

此の事を知るに
此の事を知るに
此の事を知るに

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper.

あはれもさ わらぬらん ちよとて 人あつぬい
まのあめ せふくわら けつのかて わらぬくも
改さあち せんくあひ ちんちく たらわらぬ
ちんくの 衣のそしめ とく家の けりあわく
せんと ねのらあめ ちんちの ちんちん
あはれぬらん

あはれぬらん ちよとて 人あつぬい
はのあ

ららわら 神のみいり くれ竹の 世あさん
あはれぬらん ちよとて 人あつぬい
まのあめ せふくわら けつのかて わらぬくも
改さあち せんくあひ ちんちく たらわらぬ
ちんくの 衣のそしめ とく家の けりあわく
せんと ねのらあめ ちんちの ちんちん
あはれぬらん

あはれぬらん ちよとて 人あつぬい
まのあめ せふくわら けつのかて わらぬくも
改さあち せんくあひ ちんちく たらわらぬ
ちんくの 衣のそしめ とく家の けりあわく
せんと ねのらあめ ちんちの ちんちん
あはれぬらん

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

寛平四年壬午の文の公の事

寛平四年

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style and the age of the document.

Handwritten text in a cursive script, similar to the text on the opposite page. It appears to be a continuation of the same record or account. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some words appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style and the age of the document.

く
あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま
を身すす

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

はるかに

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

あまのまねのほのまよふ人かきくく我もあま

古今和歌集序

元敏望

夫和歌者地其根放心地矣夫花北河林
者也人之在世不能去为已色易逝者承
お愛感生於志疎於言毛以送若之身
承然若之此思可以盡懷不可以空憤勃天
地感冠非化人傷和更婦等宜古和歌和
言有六長一曰思二曰賦三曰比四曰興
五曰雅六曰頌若夫去学之於花中秋好
之此樹上節在曲折各矣秋露物皆有之
自然之理也然可非世七代何變人涼怡
欲在分倭歌未恒還于系或焉乃到出之

必始有三十一字通今及款之仍也之後
部天神之孫也蓋之女子不以和款通情
者及及人代此凡大知長款短款旋以混
本之款難辨非一源流也盤盤如柳色之
相生自寸而之煥煥天之使起如一活之
房至如即收皆奈何哉
天字為然川之第報也子或事用非吳成
與入出夫但見上古款多存古質之結束
為身日之厥後為教戒之得古
天子每良辰善舉須臾不廢也
款若臣之由斯可也賢愚之性也
分所以隨氏之欲得壬之才也自大津定

子之初仍仍賦和人才子慕風德磨核皮
漢家之字化我日域之俗民業一改和款
湯襄然於育先師極本大夫者言猴亦妙
之思也古之師極本大夫者言猴亦妙
款仙也古之師極本大夫者言猴亦妙
愛陵福人貴秀深浮詞之與款派象備至
宜以居之花孤兼紅有如之款以此為
花多之便乞舍之客以出為活斗之媒故
半出呼人之右跡在文吏之業近代存古
凡若終二三入然長短不同論以可并花
山信正光如款祥然之記花而少實如鳥
畫如女徒動人眼在系中將之款之始有

如之何不足如萎花却少彩色而有香气
文琳巧琢物然之神道俗如費人之若都
哀字治山怪哉從之何花盤可足尾濟涉
如皇杖肉過曉重小可小可之歌古衣通
如之儀也然乾戶至氣力如病婦之著花
如之大友且之之秋古猿凡又史之魚也
有造與命神其都如田史之息花前也此
外氏姓流國者不可防救之大應皆以粒
為基不知秋之秋也俗人爭事榮利不
用流和可些外之秋也俗人爭事榮利不
成不骨未腐土中名先滅於世上道乃
世破如若水如秋之人亦已何若浩道人

耳我慣辨明也卒城
天子派行片令撥萬紫集自余以來河懸
十代救過百直之役亦秋弃不被探却
家如可穿相煙情如土烟言亦皆以他方
聞不以新道
堅下所字干今九我仁流秋津州之外
歲梳波山之法測愛乃像之聚：用口
破長乃巖之頃洋之滿身也德既繩之
欲其久廢之否矣 治大肉記紀交則所
才而執紀費之茶甲豎少目凡河內所恒
右萊門府之土是忠考亦各缺亦集並古
耳初秋曰續萬紫集乾是宜皆派劫乾所

身之牙勤為二十卷名曰古今和歌集臣
亦洞少云記之能名竊秋夜之長況外之
忠河信之勿通慈才藝之拙通遇和歌之
中與以承君乃之再昌嗚乎人凡既沒和
秋不互斯外千內延喜九年歲次乙丑和
月十八日臣費之等謹序

享保二丁年中長書

三月之源高為

安永九年庚子初春再刻

善洛

植村錦山堂藏

八
三

八
七

